特109
704

始

特109
704

紙手のイトスルト

外村完二 譯

向日
新版きし村

特109
704

帝國圖書館藏

「村の本」第七篇

トルストイの手紙

外村完二譯

日向新しき村版

大正
15. 10. 23
内交

小序

聖レオ！

トルストイをかう呼んだのは、メレヂコフスキイだつた。しかしこの神聖な呼掛ほど、晩年のトルストイを呼ぶにふさはしきはないでせう。

彼自ら聖徒ではないと言つてはゐますが、二十世紀のはじめロシアを統べた暗黒と混亂のさ中に、神と愛との名に於てひとり聖さを求めてやまなかつたトルストイは、まことに曾つて在りし聖徒の中の聖徒ではないでせうか。

心からの神への聖き謙虚と己の罪に對する深く眞摯なる自愧とは、晩年のトルストイの特徴です。「私は罪の深い習慣を持つてゐる非常に弱い人間である。――私は常に顫く。――私は愧しくつて死にたい」是等の言葉を、トルストイは、いかなる罪深

き懺悔僧より、はるかに強き實感をこめて言つてゐます。しかも、彼は、眞理を求むる爲には、「死に近づけば近づく程益々働かねばならぬ」と感じ善良なる神の下僕とならんが爲には、人力を超えた精進に精進を加へました。彼がその際に受けた拷問よりも烈しきものが、かつて世にあつたでせうか。そして彼は、遂に「曠野の死」を遂げたのでした。まことに、彼こそ聖徒のうちの聖徒なのです。

しかし、或る一部の人々は、彼のこの態度を弱いと非難を加へてゐます。ロシアでも、かつて多くの人がこの理由を以つて彼から去りました。けれども、これは内なる強さが淨められ、增したのです。あまりに外へのみ眼を注ぐ人には理解の出來ない、内なる聖さの爲です。嘲罵、非難、憎惡、呪咀の内に、彼はひとり人類の良心として、その壓倒的な運命の重荷を荷ひ乍ら、最も内なるもの——我々の心のうちの神——を見てゐたのです。是より強きものはなく、是より正しきに依る強さはありません。もし弱いとしたならば、まさにさうあるべき弱さ、もつとも強き弱さと言へるでせう。

彼がその驚くべき聖さのうちに見たものは、永遠に我等の道導べとなり、慰藉者となり殘るでせう。暴風雨が吹きおさまり、日光が輝くとき、やどりを失つた小鳥が巢へ歸る。トルストイが指すものは、恐らく我々の魂の永遠の巢なのでありませう。

聖レオ！

譯者

目次

リユボシンスカヤ夫人宛……一五
某氏宛……一八
ポポフ宛……二〇
マンチエスターにあるトルストイ協會長宛……二二
ナシヴイン宛……二五
ある僧侶宛……二七
エヌ、エー、エフ宛……三三
ビユルコフ宛……三六
ビユルコフ宛……三八
ナシ井ン宛……四〇
ツツチエンコ宛……四二

某氏宛……四八
エル、エル、トルストイ宛……五一
ビルユコフ宛……五三
チエルトコフ宛……五五
パステルナツク宛……五八
安部磯雄宛……六〇
田村宛……六二
エル、エル、トルストイ宛……六四
シエールマン宛……六八
ビリユコフ宛……七二
ストコフ宛……七四
コレスニシエンコ宛……七六
ルスキア●ウエドモスチ編輯局宛……七九
ボジヤンスキー宛……八三
イコニコフ宛……八五
ルツシイ紙編輯局宛……八七
モロシユニコフ宛……八九
イコニコフ宛……九一
ノ井コフ宛……九三
アンドレエフ宛……九七
僧侶ソロウエフ宛……一〇一
トニロフ宛……一〇四
ペテルソン宛……一〇七
僧侶コスボウスキー宛……一〇九
モロシユニコフ宛……一一三
ノ井コフ宛……一一六

トルストイの手紙

リユボシンスカヤ夫人宛

一九〇〇年八月二十五日

人は自殺する權利を持つか持たぬかと言ふ質問をするのは誤りです。權利等と云ふ言葉は此處では言へない事です。唯、自殺が理性的であり道德的であるかと言ふ事が問へるのみです。最も合理的なる事は常に最も道德的なる事と一致します。

しかし、自殺は不合理です。植物を絶やさうとして、その新芽を切るのが不合理な樣に不合理です。植物は其の爲に絶えもせず、唯誤れる方向へ伸びてゆく丈です。生命は不滅です。空間と時間の外に存在するものです。其故に、死は唯生の形式を變ずるのみです。そして全体として、この世で何かを滅さうと云ふ事は出來ません。しかし、若し人がこの世で生命を絶つたならば、私には第一に、あの世に於けるその生命の形体が愉快なものになるであろうか、其は知りませんし、第二に、私の眞の幸福の爲にすべてを試み、私がこの世で獲ち得る事を得たすべてを自己のものとする可能性

から遠離る事となります。殊に、又其は、人生が不快であると言ふので生命を絶つと云ふのならば、人生の目的は、一面自己完成にあり他面世俗生活の全部に役立つ仕事に没頭するにあるにも係らず、私が人生の目的は自己満足にあると僭稱して、人生の目的に就き誤つた考を持つてゐた事を示すので、不合理なのです。そして其だから又不道徳ともなるのです。全生命及び自然な死に至る迄生き行く可能性は、唯人が世俗生活に役立つと言ふ條件の下に於いてのみ、人間に與へられてゐるのですから。だのに、今、許される限り生命を享樂した後で、其が不快になつたからと云つて退く。其が不快に感ぜられ初める時こそ、この奉仕が恐らく始まる可き時なのです。初めには、如何なる仕事も不快に感ぜられます。

オプチンの修道院には、三十年以上も、左の手丈しか動かす事の出來ない不隨の老人が大地に病臥してゐました。醫者は、苦痛が強いに違いないと言ひましたが、彼は一言も訴へないのです。そして、絶えず十字を切り、聖像へ感謝の眼差を投げ乍ら、微笑しつゝ、如何に彼が神に感謝してゐるか、又、如何に彼の中に燃ゆる生命の火花に對して喜んでゐるかを示して居ました。何萬の訪問者が、彼を見やうと、修道院へ

來るのでした。そしてこのあらゆる活動の可能性を奪はれてゐる人間から、如何計り多くの善が世の中に擴まつてゐるかを量る事は困難です。違つた制度になるならば、世界に奉仕すると云ふ信仰を抱いてゐる、千二千の健康な人間よりは、この人こそ、確に多くの善き行をしてゐたのです。人間の中に生命の痕が少しでもあれば、彼は完成に達する事も出來、世に奉仕する事も出來ます。しかし、この後者は、彼が完成して始めてなし得る事であり、更に、自己完成は、世に奉仕して始めてなし得るのです。

某氏宛

一九〇一年

「トルストイの教」に就いて語り、私の指導を（絶えず）求め、私の判斷を待つ事が――大いなる誤である事を言ふ機會を得た事及び、よき時に私に其を悟らしてくれられた機會を得た事を私は喜んでゐます。

私から發した教と言ふ樣なものは、いまだあつた事もなく、且つ現在ありもしないです。唯在るのは、永久的な普遍的な全世界を包含する眞理の教のみです。私に對し、我々に對し福音書の中に殊に明瞭に現はされてゐる其のみです。この教は、人間に、自己を、神の子として、又其故に、自由なる身でも、賴つてゐる身でも、奴隷であろうとも（其を貴方の好きな樣に呼んで下さい）――この世界の影響を受けない、神と神の御心に從ふものと感ずる樣に命じてゐます。そして、この教を理解したならば、誰人も全く自づから神と直接に交る事となり、疑義とか不明瞭とかは、彼に取つてはもはや無き事となるのです。

この狀態は、岸から遠く迄溢れ出てゐる川を行くのに似てゐます。流の眞中でなく、岸から溢れてゐる部分に居る者は、自分で泳ぐなり漕ぐなりしなければなりません。そして、此處では他の人々に方向を指す事が出來ます。この範圍で、自ら流へと努めた時、私は他の人に方向を示す事が出來たのです。しかし、流に達する否や、指導は、最早有り得ないは解り切つた事です。我々はみな力强き流に依つて一の方向へ運び去られるでせう。そして後に居たものが、先頭へ出る事もあります。

何處へ行く可きかと問ふものは、彼が水路即ち本來の流に達してゐない事を示してゐます。そして、彼が其人に問ふ處の人が、流、即ち其の内では不必要なので最早問を發する事があり得ない狀態へ彼を連れて行く事が出來ない、惡案内者である事を示します。水流が、抗する事の出來ぬ力で私を、喜を與へる方向へ運び去つて行くのに、方向を問ふと云ふ事は何と云ふ事でせう。

ある定まつた指導者に賴り彼を信じその云ふ處を聞く人々は、その指導者と共に暗黑に迷ひ入つて終ふのです。

エル・トルストイ

ポポフ宛

一九〇一年四月八日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛するエフゲニイ・イワノウ井ツチ。貴方の美しい御手紙を頂いて、貴方と私の精神的相似を感じ、非常に幸福でした。其は、貴方が最後にモスコオに居られた時よりも、増してゐます。しかし是には誰も罪はありません。二人の間の精神的共通が回復されるか、されないかは全く意志とは無干係なのです。

貴方の精神の狀態は、私には完全に解り、貴方と全じ様に感じます。しかし、唯一つ同意出來ないのは、宣傳が人生の意識された目的であり形式であると云ふ事です。効果ある宣傳は、唯一しか無い筈です——即ち、其は我々自身の生活の純清さです。ですから、私は、人が知つて居て其が他の人に必要である事を知らせるのは、特に其が困難と努力とによつて爲さるれば、時としてはよき生活の最も重要な前提である事を否認したくはありません。是には全感出來ますし、私自身もこの様な狀態にゐるの

です。

教育に就いて輕ろんじないで下さい、たとひたつた一人の教育であつても。其は大いなる仕事です。私は、ビュルコフに、彼が出來得る限り最上の自由な合理的な學校を建てる様に試みてほしいと手紙をやりました。あすこでは、事情が確かに、考へられる内の最も都合の善きものです。そして、この事の意義は言葉では表せないのです。もしも若い時代の人々に眞理を認容する準備がなく（眞理への道が悉く遮られてゐるならば。）我々の努力は皆水泡に歸さなければなりません。我々の努力は、我々が居なくなる時、眞理が勝利が勝ち得る様に向けられなければなりません。この事は、仕事に取つても最善な事です。私は、希臘正教僧正會への答を書きました。私は心ならずもさう迫られたのです。其答を近日貴方へ送ります。しかし今ではもつと多くの事を書き度いと思つてゐます。もしも、私が私の死迄にそれ丈の時を見出す事が出來さへすれば。死は近いのですから。私は其を感じてゐます。兄弟のキスを送ります。どうか、私が心から愛してゐるウルフ家の方々によろしく御傳へ下さい。

貴方のレオ・トルストイ

マンチエスターにあるトルストイ協會長宛

一九〇一年八月十五日。ガスパラ

愛する友よ。

貴方が、私がトルストイ協會に興味を持つてゐるに達ひないと假定せられた事は、間違つてゐません。しかし、私は、私をして其に興味を抱かしむる丈の虚榮心が私の内にある事を、悲しく思つてゐます。私は、かたく信じてゐます。――そして其はどうしても變へられないのです――即ち個人に取つても、人類に取つても、生命が意識された當初から神に依つて建てられた古き團体の一員である方が、捕へ得る目的を達する爲に組織せられた狹き會の一員であるより、遙かに、有効果的である事と信じてゐます。私の意見では、我々が我々自身の會に與へ様とする優越は我々が其中にあつて演ずる役目の方が、我々が大なる神の團体に於て果す其よりも、遙かに重大に見えると云ふ事を理由としてゐる様です。しかし、是は唯自己欺瞞に過ぎません。貴方が御

手紙の中で述べてゐられる三種の活動は、トルストイ協會の一員に依つてよりは、大なる神の團体の一員である人々によりてより確しかに達せられるでせう。第一に、その様な人は、私が貴方に就いて知つてゐる如く、若し正直であれば、其がトルストイより出でやうが誰より出でやうが頓着せずに、彼に魂の解放と生命力を與へた思想を全力をつくして擴める事でせう。第二に、彼は、全力を傾けて努力し、人生の最重要な問題に關して、人間にその人達の考を言はしむる様にするでせう。そして第三に、彼と相觸るゝあらゆる人々に、出來得る限り幸福と喜を與へる様につとめるでせう。そして、基督の教を嚴しく守つた爲に困難に陷つた人々を助けるでせう。其他、大なる神の團体に加はつてゐる人は、トルストイ協會や他の協會等が規定してゐない様な他の多くの基督教的な仕事を完成するでせう。私は、同じ様な考方をする人が集つて協會を作る事に利益がある事は認めます。けれども、その様な組織の齎す不利の方が、便利よりも猶一層著しいと言ふ考なのです。ですから、私は、私が大なる神の團体に屬する事を罷め、一個の普遍の人間の會に加はるのは、私に取つて大なる損失を意味するであらうと思ふのです。

貴方の御意見に一致しない事は、御氣の毒です。しかし、私は、かく考へるより外に道がないのです。

エル・トルストイ

ナシヴイン宛

一九〇一年九月。ガスパラ

私は、貴方の質問に御答へ出來ません。私は、唯、心の幸福を求める人は、みな其を見附けるものだと言ふ事を知つて居るのみです。是の事は何時でも我々の力の中にあります。求める事が、もう其で一種の見出すことなのです。そして、私には、貴方が正しい求め方をして居られる如く見えます。もし貴方が退歩した様に思はれるのならば、其は、貴方が急速な進歩をしたと感じられるより、遙かに善い事です。私には、生活は唯一つしかありません。自己完成の道に勤しみながら、神と人間に事へるか、若しくは、神と人間に事へ乍ら、自己を完成さして行くかです。ですから、たとひ私が私の目的とは遠離つてゐるにもせよ、この生活を肯定するより外の道はないのです、……この人でも、生活は何に依るかを知つたならば、同じ様にこの事を認めるでせう。

「怠らず、斷念せず」私は、此の言葉をいつも繰り返して言つてゐるのです。

エル・トルストイ

ある僧侶宛

一九〇一年

愛する兄弟。

貴方の父様を知らない事は、遺憾です。貴方の御手紙は、大變嬉しく拜見しました。貴方は、私の出逢つた事僧侶の中で、私の意見と――いや私の意見とは言へないのです――基督敎の本質に就いて全く同意見である第四番の僧侶なのです。（基督敎の意義は今では全く小兒にも解し得、不一致を醸し出す余地がありません）この事は、大變喜ばしく思ひます。しかし、貴方の御手紙の中で、一つ私を不安にするものがあります。其は、貴方が敎會の形而上學と本質とを述べてゐられる事です。貴方は、その樣な貴方の意見を抱いて居られ乍ら僧侶である事が出來る樣に、その貴方御自身の形而上學を作られたか、或は、敎會的形而上學を賴つて居られるのではないかと思ひます。

貴方が十箇年勤務して居られることから、私は、貴方がまだ青年であり、私の子供か孫かにあたる位の人だらうと思ひます。で、私は、迷信を離れて、基督の教を現代の意義に於て理解し、其を守らうと思ふ僧侶は、どう云ふ態度を取る可きかと言ふ私の意見を述べて、別に貴方から乞はれてはゐませんが、忠告をする事を許してほしいのです。基督の教に從ふ事が困難な地位――例へば、兵士とか、僧侶とかが其ですが――に居る人々は、よく、その地位を肯定する複雜な混亂した形而上學の体系を工夫し出すものです。私が貴方をその危險から遠ざけたいのは、實にこの誘惑なのです。基督教徒に取つては、複雜な形而上學などと言ふものは、在りませんし、又在つてはならないのです。基督教の教義の中で、形而上學と呼ばれ得るすべてのものは、單純な誰にも理解される次の文章の中にあります。即ち、すべての人間は、神の子であり兄弟であるからその父を愛し兄弟を愛さなければならない。從つて人は自分がさうして貰ひ度い様に他のすべての人にしなくてはならない。是です。私は、且又、すべての形而上學は、悪から起り、基督教教義と一致し難い活動を可能にする爲にのみ考へ出されたものだと信じてゐます。又私が知つて居ます僧侶には、彼の位置が基督教の

純粋な解釋と一致し難い事を感じて居乍ら、彼の位置に居る方が、迷信と戰ひ、基督教的眞理を擴める爲には容易であると言ふ言葉で、自己を肯定してゐるものもあります。私は、この意見も矢張り順逆を顚倒したものと信じてゐます。宗教上の事柄では、目的が手段を是認する事はありません。何故と言ふのに、眞理から遠離る様な手段は、眞理の教の中にある目的を達する可能性を、すべて排除するからです。じかし、まづ何よりも大事な事は、何人も他人に教を說く丈の資格がないと言ふ事です。（マタイ傳第二十三章八、九節、「されど汝等はラビの稱を受くな。汝等の師は一人にして、汝等はみな兄弟なり。地にある者を、父と呼ぶな。汝等の父は一人、すなはち天に在す者なり。」）――誰もみな、眞理と愛とに於て自己を完成しなければなりません。この完成に依つてのみ、人間は、（他の人の事を考へなくとも）他の人に働きかける事が出來るのです。

貴方が其に就いて何も言はれないし、又恐らく考へてもゐられないであらうと思はれる事を、貴方へ御答へする事を許して下さい。私は、貴方の御手紙から、力强い又心よい印象を得たので、眞理を識つてその位置を遁れる事やその地位の危險さを思ひ

煩ふてゐる僧侶の悲劇的な境遇に就いて、私の考へてゐる事をみな言つて終はうと思つたのです。

この境遇から脱出する最良の方法は、――英雄的なものですが――僧侶が教區民を集め、教壇の前の讀書臺へ進み出でて、日常の禮拜を行ふ代りに、又聖者の像を崇拜する代りに、人々の前で床につく迄跪いて、彼等を邪路に導いた事の赦を乞ふのです。第二の方法は、十年前に、ジャツカ神學校出の男で今は死んで終つてゐる、注意すべき男――僧侶アポロオが、スタウロポル州で撰んだ方法です。彼は、僧正に對して、意見が變つたから最早僧侶である事が出來ぬと宣言したのです。

彼は、ストラウロポルに召換されました。其處で、官廳や彼の親戚は彼を苦めて彼を再び元の職に復する樣にさせました。しかし一年も經つか經たぬに、彼はもう其以上堪ゆることが出來なくなつて終つて、又僧職を辭する爲に辭職して終つたのです。彼の妻は、彼を捨てました。それで、是等の苦惱に苦しめられて、彼は、遂に聖者の如く死んで終ひましたが、死する迄彼の確信と――感心すべき事には――愛とは棄てませんでした。

是が第二の脱出の方法です。しかし乍ら、私はこの方法が僧侶の家族關係や並びにその環境を考へれば、いかに困難かはよく識つてゐます。――だから、私は、其をよく了解して、自分のしてゐる事を信じてゐないにも係らず弱さから僧侶に留つて居る人を非難する等と云ふ事は全然しないのです。私がもう一言いひたいと思ひ、忠告を敢えてする事は、（是と全じ事を、私は、兵役に入る人にも忠告してゐますが）惡い事をしてゐるにも係らず、善い行をしてゐると信じさす事が出來る樣な奸計に、健全な理性を用ひない樣にして欲しいと言ふ事です。人間は、眞理をその全き純粹さに於て守り、良心に背かぬ行をしてほしいものです。さうすれば、彼の力に相當した最良の方法で行へる道が現れて來ます。眞の基督教の教を理解する僧侶は、私の意見に依れば――全体の基督教徒と全じ樣に――眞理を、その純粹さと完全に於て――彼の願望とは全く別に――理解する事と、第二には、出來得る限り、彼の位地を、認めてゐる眞理に彼を近かしむる樣に變へる事に努力しなければならないのです。（後者は、もし人間が眞摯であれば、自づとさうなるものです）この位人間がこの事に近づくかは（僧侶に取つては、これは、非常に困難な事です。僧侶の位地と言ふものは、眞理に遠い

のみならず、あまつさへ眞理に背き敵對さへするものですから）――これは、彼と神との問題です。與り知らぬ者は、判斷を下す事が出來ません。

兄弟の愛を以て貴方に挨拶を送ります。

貴方の、貴方を愛する、

レオ・トルストイ

エヌ・エー・エフ宛

一九〇一年十二月三十日。ガスパラ

私は、貴方の御手紙を頂きました。一瞬と雖も、貴方の正直さを疑つたりはしませんでした。貴方の年頃の純粹な青年は、肉体的の力に滿ち滿ちて、活動最中にある樣な人、即ち中年の人よりも、ずつとよく、根本的な宗教問題を了解してゐるものです。

貴方が欲しがつてゐる本は、御送りし度いのですが、唯一册しかないのです。もし余計に手に入れば御送りします。今は、人は如何に福音書を讀む可きかと言ふ問題を論じた、一小册子を御送りします。私は、其を貴方が注意して讀まれ、備考を貴方の新約聖書に書入れて、その聖書を幾度も通讀せられん事を望みます。

貴方が宗教上の疑問を正直に眞面目に取扱つて居られる事は、實際一番本質的であ

る貴方の質問によりて解りました。一、人は、福音書全部を、神の精靈に充ちた神聖なるものゝ解す可きか。――言ふ迄もなく不可です。此處に、福音書からその全体の意義を失はしめる恐ろしい詐瞞があります。二、貴方が、ルーテル教會の教義をすべて信じないのに、信仰確認を受く可きか。――言ふ迄も無く不可です。もし、人を欺く事が厭ふ可き事であり、しかもその僞が常に悪い結果を引き起こすものゝこすれば、神を欺く事はいか計り厭ふ可き事であり、その様な僞の結果は、いか計り恐ろしいものゝこなるでせう。(この僞はあまり屢々行はれるので、人間は其ゝ氣が附かず、其故に又々多く行はれてゐます)三、童貞の問題は、貴方の眞面目を示してゐる問題の一です。貴方の友達や醫師の言ふ事を信じてはいけません。結婚の問題が起つて來る、男ゝしての全然成熟する時迄、童貞を守る事は手易い事です。そして、其を信ずれば猶一層容易ゝなり、其は決して英雄的行爲でなくなります。そして、すべての人が犯すので、犯罪でなくなつてゐる唯一の犯罪を避ければいゝのです。是を、貴方が信じなければいけません。

貴方は正路を歩んで居ます。他の路へ誘ふものをすべて用心しなさい。そして、貴方がこの正路を歩んでゐる事を、世の何吻よりも尊く御考へなさい。

愛する

レオ・トルストイ

ビュルコフ宛

一九〇二年八月二十日。ヤスナヤ・ポリアナ

愛する友、ポール、私は長い間御手紙を差し上げなかつたので、大變に苦しんで居ます。

私は、傳記を書く約束をした爲に、貴方が、無駄な望を起されてゐはしないかと心配して居ます。私は、其に就いて熟考して見ましたが、生涯の中のすべての嫌惡すべきことに就いて、(すべての惡事を隱す事に依る)自己禮讃の危險と其から犬儒學派的卒直の危險とを避くる事が、どんなに恐ろしく困難なのかを知りました。人は、その人の行つたすへての醜さ愚かさ賤しさ罪を全く卒直に、ルソーより卒直に書かなければならないと言ふんでせうか。そんな事をしたなら、不快な作品、本が出來ることでせう。そして人々は言ふでせう。「是が多くの人からあんなに尊敬されてゐる人間なのだ。其だのにこの男がこんなやくざものだとして見ると、我々普通の人間は大方惡

者につくられてゐるのだろう」と。

眞面目な處、生涯を回想して、生涯のすべての愚かさ「事實の愚かさ」や醜くさを識つた時、私はかう自語しました。多くの人に賞讃せられてゐる自分がこんな愚かな怪物であるのだから、他の人々は、一体どんなのだろうかと。是は恐らく私が他の人々よりずつと狡猾に振舞つた所爲だと解すべきでせう。この言葉は、美しい言葉として作つたものでなく、全く心からかう思つたのです。私は、すべて此等の事を經驗したのです。

御機嫌よう。貴方にキッスします。

エル・トルストイ

ビュルコフ宛

一九〇二年十一月十一日

愛する友、パウルよ。

貴方の美しい詳しい御手紙を有難う。

私の傳記に就いては、喜んでお助けもし、又重要な事は少くとも、私が書いて見度いと思つてゐるのを御知らせして置きます。私は、自分で其を書いていゝと決心しました。と云ふのは、もし私があなたに、私の精神的覺醒以前の醜い生活をすつかり示し、そして夫から、覺醒後の善さをすべて（偽りの謙遜を用ひずに）示したならば、（たとひこの覺醒が唯意圖に留つて、弱さの爲にその意圖が實行されてゐないにもせよ）人々に興味を與へ又利益を與へる事が出來ると思つたからです。この意味で、私は貴方の爲に筆を取りたいのです。時期を十年に劃期しやうと云ふ貴方の意見は私を大變に助けてくれ、又種々の事を考へさしてくれます。今してゐる仕事が終つたならば、

直ぐに始める樣つとめて見ませう。

御機嫌よう。貴方にキッスします。

レオ・トルストイ

ナシ井ン宛

一九〇三年十一月一日。ヤスナヤポリヤナ

愛するイワン・フエドロ非ツチ。御手紙を頂きました。そして、その前に佛蘭西新聞の切抜も入手致しました。有難う。

いかに人間が次第に空氣と太陽とを奪はれて行くか。其に就いて、貴方が書かれた事は美しい。しかし、貴方が、貴方自身に就いて貴方の精神狀態に就いて書かれた事が、一番美しいものです。

私は貴方を心から愛する事を知つた丈に、殊にこの事は喜ばしいのです。この魂の狀態は、かつて私が其を通つて來た故によく知つて居ます。其は、眞の、讓られない善行なのです。

貴方は、何故に私の意見に依れば、貴方に依つて計劃されてゐる仕事の完成が不可能であるのかと。お尋ねですが、イエスの傳記や、歷史や、生涯を書く事は出來ない

事です。何故と言ふに、我々がこの人の一生に就いて知つてゐる事は、我々が知る事を得る、最も精神的に高いものだからです。彼の言葉、彼の教へは、彼を通じて我々が近附き得る所の、神の顯示なのです。彼の一生を描く事が出來るには、彼の一生が生じたところのその源泉が說明せられねばなりません。彼が、私をして其に近附かしめ、私に顯示したものを理解するだに辛うじてなのに、如何して私にそんな事が企てられませう。私は、基督の生涯からの鎖事を附加したくないのみならず、寧ろ現存の細事は、取除きたいのです。

恐らく私の見解は、貴方にははつきりしないでせう。もしさうでしたならば免して下さい。

御機嫌宜う。私は、貴方の愛を感謝します。そして、親しく抱擁を致します。

エル・トルストイ

ヅツチエンコ宛

一九〇三年十二月十日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛するミトロファン・セミヨノ井ツチ。私は、貴方の御手紙に就き、大變嬉しく思ひました。私は、疾くから貴方の事を考へ、又貴方が世界で最も重要なるものとして居られる對象に就き考へて居りました。

私は、我々の最も本質的なる要求を滿足さす必要に關する私の見解を少しも變へてはゐません。却つて以前よりはるかに生々ここの事の重要さを感じ、又私がこの義務を果さない時に犯してゐる不正を感じてゐます。私に、この義務を果す事を妨げてゐる原因は多くあります。私は其等をみな數へ上げやうとは思ひません。主なる理由は、私の弱さこ罪にあるのです。ですから、貴方の御手紙は、私に取つて眞の精神的の樂みであり、同時に、非難であり、警告なのです。唯私を慰めてくれるのは、私が惡しき生活を送つてはゐますけれども、未だ決して自己を欺いた事がなく、私の爲に辯護

を求めた事もなく、私が書物を書いてゐるが故に是等の義務を免れる事が出來るこ言つた事もない事です。私は常に貴方が手紙に書かれた事こ同じ事を感じてゐました。私が善き書物を讀みたいこ云ふ欲求を持つてゐる樣に、私の爲に勞働してゐる人も矢張りその欲求を持つてゐるでせう。そして、若し私が書き書物を書く事が出來るならば、彼等の精神が勞働に依つて窒息され殺されて終はない時には、私より以上によく書くであらう幾千の人がゐるでせう。其で私は、貴方こ全く意見が全じであるのみでなく、以前より猶一層生々こ私の不正を感じてゐるのです。そして、其に惱んで居る故に、私は、他人に强制的勞働をなさしむる權利を否認する事が如何計り重要であるかを認めてゐます。

私が貴方の事を考へ又貴方からの言葉を聞いた時、貴方の全く困難な立場がはつきりこ意識されました。愛する友よ、勇氣を落こさないで下さい。「最後迄忍ぶ者は救はる可し」この句は殊によく貴方の今の狀態に適しいものです。私は思ひます。如何なる心配も、我々に正しく考ふる事を妨ぐるものではないこ。（是は、貴方の御手紙を見ても分ります）正しき考を妨ぐるものは、唯暇こ贅澤こです。是を私は屢々私自身に

於て見るのです。

豊かな生活を送つてゐる私が、貴方に、困苦と艱難に充ちた生活を續けてお行きなさいと忠告するのを敢えてする、其が如何計り奇妙に又邪悪に見えやうとも、私はさうせざるを得ません。其は、貴方の生活法が善く、其が貴方の良心と一致し、神の嘉し給ふものであり、從つて人間に取つて必要であり有益である事を私は一瞬も疑はないからです。是に反して、私の活動は、其が如何に人間に有益である様に見えやうとも、侵されてゐるのです。私は其が、私が信じてゐる事へ達する爲の眞面目な且正直な精進に必要なる最も重大な條件を私が果してゐない爲でない事を望み度いのですが。

近頃賢明な宗教的な亞米利加人で、ブライアン（譯者註。亞米利加の大統領候補者であつた事がある）と云ふ人が私を訪れて、何故私が單純な筋肉勞働を必要なものと思ふかと尋ねました。私は、丁度貴方が私へ言つて來られたのと、殆んど全じ様な答をしました。第一に、其が人間が平等であることを心から眞に認めてゐる印であり、第二には、其が彼等の窮境を解釋するに當つても、我々が其人々から恰も壁に依つて距て

られてゐる如く距てられてゐる勞働者達を人類の大部分に近づけ、第三には其が、最幸の幸福、即ち奴隷を要する、正直な人が、持つて居ない、又持つ事の出來ぬ靜安な良心を與へるからだと言ふのです。

以上が、貴方の御手紙の最初の點に關する私の忠告です。さて次は、第二の最も困難な點――即ち宗教的教育です。教育に於ては、肉体の教育と精神の教育とを問はず、全体として、私は、子供に何事も無理に強ひず、靜に待つて、彼の中に起つて來る欲求を滿足さすのが、一番大事だと思つてゐます。そして、是は、教育するに至難なる對象、即ち宗教的な對象に際し、殊に必要なのです。食慾の無き子供に食を與へたり、興味も必要も無き智識を呑み込ましたりするのが、若し有害無益であるとすれば、彼等が問ひもせず、又多くは誤つて理解する所の宗教的觀念を呑込ます事は如何計り遙かに有害でありませう。其は唯、此の時分に恐らく無意識に子供の魂の中に眼覺めて根を張つて行く、人生への宗教的關係を破壞するに過ぎないのです。

私の意見では、人は唯子供が自ら質問する事を答ふ可きだと思ひます。しかし言ふ迄も無く常に完全な卒直さを以つてです。尤も、子供の宗教的な質問に答へるのは非

常に手易く且つ單純な樣に思へるものですが、事實是を爲し得るのは、唯、子供が常にはつきりと尋ねる處の質問、即ち神や生死や善惡に就いての宗教的質問に對して、曾つて自分自らに眞理に忠實なる答を與へてゐるもののみなのです。

丁度此處に、私が曾常に教育に就いて考へて來た事であり、又貴方が貴方の御手紙で言つて居られる事である――子供教育の本体は我々自身の教育にあると云ふ事が確證されます。其が如何に奇妙に見えやうとも、この自己教育こそ、兩親の持つ最も力强い教育の道具なのです。そして、我々の將來の子孫が自分の爲に推擧した最初の句――汝自身を完成せよは、人間の最も高貴な――そしてたゞひ其が奇妙に思え樣とも――他人へ感化を與へる意味に於て、最も實際的な活動を形造つてゐます。そして是は教育に於ても仝じです。貴方がその眞の意義を認めてゐられない、貴方の困難な生活は、教育には最も有利なものです。貴方の生活法は、何か眞面目なものを持つてゐます。子供等は、其を認め又理解します。しかし其でも、貴方が私に對して、子供の宗教教育を促進さす爲に何か子供に讀み聞かせたり與へたりするものに就いて、もつとはつきりした指圖を得たいと願はれるのならば、私は、次の事を御注意し度いのです。即ち、ある分派の宗教書――我國では恐らく基督教のものでせうが――のみに滿足せずして、基督教と仝じ程度に佛教、婆羅門教、儒教、ヘブライ等の文獻を利用してほしいと。

貴方との交際は、私には非常に――喜ばしい事です。私は唯この交際が私に齎してくれました利益の百分の一でもが、貴方にもこの交際に依つて齎されん事を願ふのみです。そして、其故にこの交際がもつと盛になることを望んでゐます。

愛する、貴方の

レオ・トルストイ

某氏宛

一九〇四年一月二十九日

愛する君よ。私は、貴方が書かれた事に、全く同意してゐます。私自身は、全く徐々に、さうした意見に到達したものですが、しかし、今、私は、最後に斷乎として、其を信じてゐます。今チエルトコフの許で恐らく印刷中である「宗教とは何ぞや、その本質は何なりや」の中で、私は、其を公言しました。しかし、唯ある一點に於て、しかも非常に重大な一點に於いて、私は貴方と一致して居りません。其は次の點です。現在に於いて、殊に我々露西亞に於て、教會及國家の虚僞が、基督教主義の樹立及少くとも其に接近する事に對して重なる障碍であると言ふ事は全く誤の無い事ですが、だからと言つて、この二の虚僞に對する戰が、基督教徒の一番重大な任務だと言ふ事は出來ないと言ふこの點です。その助けに依つて基督教徒があらゆる目的を達する所の基督教徒の活動は――その目的の中には、今日我々露西亞に於いて、基督教徒の正

にしなければならぬものもありますが――常に何處に於ても全じものなのです。即ち、その光を點じ、人類の眼前で輝かさす點にあるのです。此に反して、我々の注意及力をすべて、ある特殊な箇々の目的、例へば勤勉な勞働生活とか、說教とか、又今我々の論じてゐる樣な、虚僞に對する戰とかに集中さすと云ふ事は常に失敗なのです。其は、或人間が、洪水に際して、主な源の水を放出しもせず、又水全部を堰き留める堤防を築きもせず、水を街で妨げやうとしてゐる時の過誤と全じです。他の街を通つて水が彼の處へ達し、彼の家を水中に沒せしめる事を考へてゐないのです。貴方の御手紙を頂きました時、私は、人は戰にあつては、蛇の如く怜悧に鳩の如く柔和でなければならぬと書かうと思つたのですが、其丈では足りません。人は、共通の主な目的を一瞬と雖も、眼から離してはなりません。特殊な部分的な目的の追求に沒し切つてはならないのです。だからと云つて、是は、ある一定な虚僞に戰を挑む事が不必要だと云ふのではありません。（その虚僞が最大の惡だと知れば、人は全く自發的に其をやる事でせう）其は、唯是丈の意味なのです。即ち、この樣な戰が、完成への奮鬪から必然的に起つて來た時、その時初めて虚僞に對して戰ふ可きであると言ふ意なのです。もう

一つ比較を試みる事を許して下さい。すべての家を火災の危險から護れよと言ふ命令が出たのです。是に對して人は次の樣な事を爲す事が出來ます。綠の小枝を切り取つて、其を家と家との間の大地に挿すのです。是は事實一兩日位しか滿足に行かないでせう。しかしこの代りに、人がもし若木を植えて、根を張り大きくなる迄待つたならその効果は、永久に續くでせう。かくの如く我々の活動も、根を張らねばなりません。そして、是は、我々が神の御心に從ひ、自己完成と我々の中なる愛を增す事に役立つ樣な個人的生活を送る點にあるのです。

私の身体の工合は、相變らず不良ですが、精神的には非常に幸福に感じてゐます。私は仕事が出來ます。そして、私の近き死に關して、益々眞面目に、出來得る限り仕事をしてゐます。私は屢々貴方を思ひ出し、心から愛してゐます。唯貴方の爲、貴方の烈しさと激情とを心配してゐます。

レオ・トルストイ

エル・エル・トルストイ宛

一九〇四年四月十五日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛するレヲ。お前の手紙を受取つて、いつもの樣に、若干の返事を書く外に際がありば返事を書く積りで居た。しかしおつかさんが、今日お前の手紙を貰つたので、急いで返事を出します。私の意見は、常に全じで、旅行や漫遊は、精神に甚だよくない効果を與へると思つてゐます。特に精神の活動の爲には。

是は、特に精神に關しては明確です。カントは、全生涯を通じて一歩もケーンヒスベルクから出ませんでしたが、莫大な精神的遺産を遺しました。お前の問に對する私の直接の答は、かうです。お前の妻が、その事に就いてお前と意見が全じで、苦しまないか、或は、お前が旅行しない方が、する方より一層苦しむのであれば、其時こそお前は旅行してよろしい。

第二に、「ノヴォエ・ウレミヤ」に加はる事は、私は望ましく思ひません。この新

聞、即ち、この新聞の傾向は、いゝものではない。しかし、お前の様に若くつて、力が滿ち滿ちてゐる時に、其がお前に誘惑的に感ぜられるのは、非常によく解ります。

私に取つて、戰爭の狂氣染みた點や犯罪的な點は――殊に、私は最近戰爭に就いて書き、其爲に多く熟考したものだから、――あまりにはつきりして居て、戰爭の中には、狂氣と犯罪としか見出す事が出來ません。そして、道德的な人間は戰爭から身を遠ざけ、戰爭の狂暴に汚されざる樣に、其に參加しない樣にしなければならぬと思ひます。暫くさよなら、機嫌よく。お前にキスする。

（譯者註。此の手紙の宛名主であるトルストイはトルストイの四男である。）

ビルユコフ宛

一九〇四年八月十四日

愛する友、P。あなたの御手紙は頂きました。そして、あなたが試練を經られた事、殊によく經られた事を喜びます。

あなたの私の傳記は、まだ讀まずに此處に置いてあります。私は讀み度いと思つてゐるのですが、唯次の樣な氣分の時に讀み度いのです。完全な注意力を注いで讀める樣な狀態にある時、備考や訂正をする事が出來、又その樣な氣になる氣分の時に。私は、間も無く果す事が出來るでせう。

私の記憶してゐる範圍では、私は二度外國へ旅行してゐます。最初は陸路に依つて、確か千八百五十二年の時と信じます、二度目は、妹と一諸に海路を經てステツチンへ出ました。千八百六十年の事です。宣戰布告の日に、私がロンドンから歸國の途に就いた事を、憶えてゐます。

死刑に臨んだのは、最初の旅の時の事です。カウカサスへは、私は兄と共に、ボルガ河をアストラカンへ出ました。兄の言ふ通り、彼は、既に前にカウカサスに居たので、私は、彼の歸國後、彼と一諸にあつちへ行つたのです。

ツルゲネーフに爭を挑んだのは、もつと後の事です。我々が一諸になつた、フェットの家でです。巴里では、そんな事は起りませんでした。

ヘルツエンには、私のロンドン滯留の最初の一日の中に逢ひました。（と、私は信じてゐる）我々は、殆んど毎日有益な談話を交したものです。筆を下したものは、何も無いと信じます。とにかく日記を調べて見ませう。ブラツセルへ私が旅立つ前に、ヘルツエンは、プルードン宛の手紙を呉れました。私は、其處で、プルードンに逢ひ、大變氣に入りました。丁度矢張りブラツセルで、私は、衰へ果てた老人になつて、非常な困窮の中に暮らして居るレレヴエルをも訪ねました。ブラツセルでは、ヅンヅコフ・コルサコン家の人と一番よく一諸になりました。ヅンヅコフ侯爵は、まだまだ生きてゐたのです。私は、彼の娘の一人とクリムで逢つた事があります。彼女は、プスコフの政治家、アイ・ハイデン伯と結婚しました。

學校の拘留室に私が入れられたと言ふ、ナサロフの言葉は、本當です。法律の教授イワノフの講義に出なかつたので、入れられたのです。彼は、何か譯があつて、私を捕へたのです。

すべての思出は、子供時代の人を描き出しても、極僅かしか現はれません。歌が二つありました。貴婦人から貰つたのを、貴方に送りませう。

ごうか、可愛らしいポセハに宜しく。私は彼女を非常に愛してゐます。そしてあなたがた二人を。

レオ・トルストイ

（譯者註。ヘルツエンは、ロシアの政治記者で多くロンドンに住み、其處に自由露語出版所を起して「北極星」及「鐘（コロコル）」の急進的な露語雜誌を發行した。彼は又イスカンデルと言ふ假名で小説及科學論文を書いてゐる。プルウドンは、佛蘭西の社會主義者で、アナーキズムの創始者と迄言はれてゐる。レレヴエルは、ポーランド人の歴史家で、ポーランド革命を起して追放され、ブラツセルに行き、一八六一年巴里で死んだ。）

チエルトコフ宛

一九〇四年八月十四日。ニコルスコイ

私は、今、私の兄の家から、書いてゐるのです。彼は、重病で、死ぬ程重いのです。（顔面癌腫に罹つてゐるのです）苦しみを堪へる事が、次第に困難になつて行きます。そして、死が近づくこと言ふ事を考へるのが、彼には、恐ろしいのです。私は、其が過ぎ去つて、他の生へ移り行く前の必然的な淨化が來る事を望んでゐます。

死が迫りつゝあること言ふ事よりも、寧ろ人生がほんの斷片的なものであること言ふ事も、知らずして、生活してゐる人間は、何こ悪い、そして非宗教的な生き方をしてゐるのでせう。

人は、死を考へてはなりません。けれごよろしく死を考慮して生活を整へなくてはなりません。さうすれば、生活は、初めて、意義あるものこなり、快活になり、眞に實り多きものこなります。我々は、死を眼前に見れば、益々働かなくてはなりません。

何故こ言つて、死が、如何なる瞬間にも、我々の仕事を中絶せしむるかも解らぬからです。そして更に、人は、死を目前にして、初めて、全生命の爲に、即ち神の爲に必要な仕事にかかること出來るのです。そして、人が斯う云ふ風に働けば、生活は快活になり、我々の生命を毒し又死を目前に見る人の生命を毒する、妖怪、即ち死の恐怖もなくなつて終ひます。死の恐怖は、生命の價値に對して逆比例するのです。完全に純粋な生命に取つては、この恐怖は、無に等しい。しかし、死こ生に對して、かゝる態度を取り得るは、宗教的修練に依るのです。けれごも、我々はこの様に育てられてゐないで、辛苦して自らに働きかけねばなりません。この様に一般に宗教的教育を施す事が可能でせうか。もし出來たなら、何こいふ善事でせうに。

愛する

レオ・トルストイ

（譯者註。この手紙に現はれてゐる兄はセルゲイであつて彼はこの年に沒した。）

パステルナツク宛

一九〇四年十一月二十日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛する、レオニツド・オシツポ井ツチ。送つて下さつた繪を感謝します。特に氣に入つたのが、二枚在りました。「夕餉」と、特に女の顔です――あれは本當にイアです。最後の繪に描かれた、イヤの二人の小さい娘と一諸に居る女も全じ位氣に入りました。紳士も又よく書けてゐます――彼が寸法を量らさうと足を差し出したその氣張つた有樣が。

最初の繪は、天使の身体があまり肉体的なので、不滿足です。尤も、天使を肉体的に表はさうと言ふのが、既に不可能な仕事です。靴工の繪も全じ事で、彼もあまり肉体的です。しかし、全体としては、貴方の繪の悉くの樣に、みな美しく。私は、貴方に感謝してゐます。

貴方の愛する妻によろしく。御子さん達は御丈夫で御育ちの事でせう。

貴方の

エル・トルストイ

（譯者註。パステルナツクは、トルストイの小説に挿繪を描いた畫家で、ここに書かれて居るのは、「人何に依りて生くるや」の挿繪に就いてである。其他パステルナツクに依つて描かれたトルストイの肖像は、數多く遺されてゐる。）

安部磯雄宛

一九〇五年。ヤスナヤ・ポリヤナ

親しき友、安部磯雄。貴方の手紙と英語の註釋の附いた新聞を受取つて、私は大變喜びました。心から貴方に感謝します。日本にも、今回の戰爭に對して嫌惡を感じてゐる、理性的な、道德的な、宗教的な人々の大勢が居らるゝ事と、是迄一度も疑ひはしませんでしたが、しかし、この意見の確證を得て、大に喜ばしく感じたのです。其に、私が親しい交際を續ける事が出來る、友人と共同者を、日本に於て得たと言ふ事が、大變に嬉しいのです。そして、私が、正直に交際する他の何人に對してにも、さうである樣に、貴方にも卒直でなければなりませんから、私は、私が社會主義を認める事が出來ぬ事を告白しなければなりませんし、又、才能あり精力ある貴國の人々の最も聰明な最も進步した部分が、歐州から、社會主義の最も弱い僞りの理論を受けて居られる事を知つて悲しんで居る事を、告白しなければなりません。社會主義は、人

間の性質の最も低い方面を滿足さす事を目的としてゐます。——物質的幸福への努力です。しかし其さへ、社會主義の告げてゐる方法では達する事が出來ぬのです。人類の眞の幸福——精神的及び道德的のそれ——は、物質的幸福を其中に包含してゐるもので、この最高の目的は、唯各個人の宗教的な道德的な完成に依つてのみ、達せられるのです。民族や人類全體は、個人から、成立してゐるものですから。宗教と言ふ事に就いて私はかく解してゐます。神に依りて、我々あらゆる人間に與へられた法則、即ち實際的には各人がすべての他の人を愛する事及び、各人が、己れが欲する如く人に施す事に現はれてゐる、共通普遍の法則を信じる事が宗教であると。私は、此の方法が、社會主義や他の理論より、遙かに合目的でないと考へられてゐる事を知つて居ます。しかし、是が唯一の正しき道であつて、他の誤れる不可能な理論を實現せんとして、我々がつとむるすべての努力は、全人類並びに各個人の眞の唯一の幸福に取つては、徒勞なのです。

貴方の所論に批評を敢へてした私の大膽さを許し、私の友愛の卒直なる事を信じて下さい。貴方から報知を受ける事は、私に取つて喜びです。レオ・トルストイ

田村宛

一九〇五年三月。ヤスナヤ・ポリヤナ

親しき友。貴方が私に宛てた質問の答は、「基督敎」及び「我が信仰何にありや」の本の中に見出し得られます。人が基督敎であらうと、佛敎徒であらうと、將又儒敎徒、或は回敎徒であらうと、其は構ひません。人間が絶對に信じなければならぬ、外的の權威は存在しないのです。しかし、人は、宗敎を、即ち、彼の生命の問題の合理的な解釋と定義とを持たねばなりません。かかる合理的な生命の解釋は、誰でも自己の宗敎に於て見出す事が出來るのです。そしてあらゆる宗敎に於て、この解釋は、同一なのです。その解釋は、次の通りです。人間は、我々が神と呼んでゐる、最高の力に隷屬してゐるもので、この力の意志を充たさねばならない。この力の意志は、全人類の統一に向けられてゐて、是は愛に依つて達する事が出來る。この命令を果すものは、生に於ても、死に於いても、惡を知らない。この眞理は、あらゆる宗敎の中に、即ち

婆羅門敎、佛敎、儒敎、道敎、猶太敎、基督敎、回敎にもあります。そして、この眞理は、自己の意識に依つて確證すると云ふ、存在し得る最高の權威を、自らの中に藏してゐますから、其を宣言するに何等權威を必要としないのです。唯かゝる宗敎にして初めて、人間を、人間が自らに加へて行く惡から救ふ事が出來ます。ですから、私は、宗敎を歪める迷信の根絶を、各人の最も貴き又主たる義務であると信じてゐるのです。

貴方の友

レオ・トルストイ

エル・エル・トルストイ宛

一九〇五年十二月二十七日

今日初めて、お前の手紙を落手したので、直に、今日返事を出す。お前が書いてゐることは、多少私も知つて居る。けれども、お前がよく描いてゐる丈に、私は特にありありと、我々の社會の恐ろしい道德的廢頽を感じた。

狀態は、今の處では――外面的には全く變化して終つて居る。しかし、抑壓せられ、外的の方法で壓迫せられてゐる、人間の憤怒は、本當にそんなに恐ろしいものである。

私は、新聞は讀んでゐない。しかし、親戚やお客の――どつちとも、實に無數だ――話で、出來事はみな知つて居る。そして、革命とは全く關係の無い私の仕事を續ける事も出來ない。其で、私は「世紀の終」と言ふ一篇を書いた。是は二週間前に外國で出てゐる。其から今……を書いてゐる。唯其に依つて、私の心を靜める爲に。若し「賢者の思想」を持つてゐるなら、今日の日附十二月二十七日の處を讀んで御覽。

個人の狀態が改善さるゝ事に依つて初めて、すべての人間の狀態が改善されると言ふ事は、誰も其を言ひ爭はない故に、反覆する要もない程一般に認められてゐる眞理である。けれども其にも係らず、其を認めてゐる人も、確かに其は正しいと言ひ乍ら愚ろかなる事を言ひ、又爲すのを止めない。是等萬人の境遇の改善する爲の、全然外的の活動が、少しも貢獻する所が無いのみでなく、むしろ決定的に、明らかに、惡化をもたらす事も知らないのである。この惡化は、我々が今見る如く、道德的水準が驚く可く低下してゐる事から生ずるのだ。しかし、この低下は、すべての不道德的な人間に取つて、有利であり、便利なのだ。人間が不道德であればある程、彼等は、いよいよ熱心に社會の轉覆に專念するのである。

其時人は、如何にすべきだろうか。

宗敎を持たない人々は、彼等が現に既に遵奉してゐる事――即ち黨派に與し、戰ひ、憎み、害毒を流すに違ない。

しかし乍ら、宗敎的な人々は、その生命を顧ず、他人への同情と云ふ神に對する義務を果すにつとめ、出來得る限り、隣人を愛し、隣人に事へるだろう。しかし、もう

けつして、國會(ツーマ)とか、立法の集會とかを起こしたり、其に似た馬鹿氣た事は、やらないだろう。是が事實である事は、お前は、直ぐに信ずる事が出來る筈だ。お前が外的の事柄を重大視するならば、お前は、正氣を失て、善惡の辨別を失ふ程盲目となる計りでなく、直ちに他の人々と接戰する樣になるのだ。しかし、お前が唯神に對する義務のみを思ふならば、すべての事は、明らかに又容易となるものなのだ。お前自身の中に在り、其故にお前が克服し得る障害の外、何の障害があらう。お前は、他人に對して敵意を抱かないのみならず、彼等に對する愛を感じ、己の中に愛を覺醒さすのである。

だから、私は、お前にも又他の人々にも、唯、一つの事を望むのだ。人は宗教なくしては、邪惡なる醜怪なる不幸なる存在であることを、理解してほしい。夫から宗教を持たない人が、人生に對する宗教的態度を自得して、其を根據としてすべての人生現象に對する態度をきめる事が、最も重大な意義深き事である事を、理解して欲しいのである。現今の樣な時代には、特に、この必要が感ぜられる。私は、切にこれをお前の胸に銘じさす……。

（譯者註。一九〇五年に入つて、ロシアの國情は不安を極め、勞働者及一部の農民の間には、革命運動が企てられた。「世紀の終」は、この時に當つて、常にトルストイの主張する如く、又この手紙に於ても現はれてゐる如く、是等の運動を、社會組織等の如き外的な生活形式の改善に向はしめずして、內面の精神の淨化と宗教心の覺醒に導かんとした論文である。）

シエールマン宛

一九〇六年二月十日。ヤスナヤ・ポリヤナ

私は、貴方を完全に理解してゐます。そして理解してゐるのみでなく、又貴方と一致してゐるのを感じます。何故なら、我々二人の人生の原理は、等しく神を意識さすからです。この意識の深き根據に立つて、我々はみな一こなり融合するのです。この様な意識は、一個の貴き財寶です。しかし乍ら、我々は、必しも常にこの意識の等しき源處に在る事は出來ません。この意識を有する人の主なるつとめは、第一に、彼の全生涯を通じて、出來得る丈長くこの意識を確保する事、第二には、この意識なき彼の生涯の他の部分に於て、出來得る限り、この意識に近づき、あらゆる行爲にすべての人間すべての生物の一致團結の意識を滲通せしむる事にあります。

この事は私をして、私が御手紙を讀んでゐた際に思ひ浮べた考を思ひ起こさせます。貴方は一家の父であり、妻子を持つてゐられる。所が貴方の奥さんは、如何しても、

この意識の結果である行爲を好まれない。我につかぬ者は我に背くですから、奥様は、好む事が出來ないのでせう。生活方法を變へる事を喜んだり、或る人間がその世俗的な人生觀を捨て、基督教的人生觀に入るのを喜んだりするのは——不可能です。この人生觀は、共に持つか、持たぬかの道しかありません。若し共に持たなければ、喜ぶ事は出來ず、却つて其を憎むに至るものです。ですから、貴方の奥さん及我々の世俗的の概念に從へば貴方に取つて一番近いものである人々の貴方に對する關係も又、さうならざるを得ないのです。

さてしかし次の問題は、彼女に對する貴方の關係はどうなくてはならぬかと言ふ問題です。貴方が出來得る限り、彼女を激さゝぬ様に行動しなければならぬと言ふ事、よし激さすにしても出來得る限り僅少の度に留める事は、解り切つた事です。しかし貴方が良心に基いてどうしても避ける事が出來ない行爲があります。しかも、例へば土地の放棄等は貴方の家族のみでなく、局外者に對してでも、立腹を招くに違ひありません。そしてその時には、他人の激怒が貴方にうつらない様に、嚴しく貴方自身の心を調べる事が必要です。人はその人達の立場を理解する様につとめなければなりま

せん。そして、彼等を怒らし激せしむることを避ける事が出來なくとも、決して彼等を愛するのをやめてはなりません。「愛の中にあるものは、神の中にあり、神は又そのものゝ中にあり。」他の人々の敵意ある愛情及行爲があつても、この愛の中にある事を忠實に守らねばなりません。最良の人々と雖も、通常はかく信じてゐるものです。主たるつとめは、他人を怒らさず欺かず彼等に快よく感じられ、彼等の愛を得るにあると。

しかし、是は大なる過誤です。人は、行爲を爲すに當つて、この事が人々の好ましい事か好ましくない事かと言ふ點に計り迎合してはなりません。唯、我等の行爲が、神の御心に適ふか適はないかと言ふ事にのみ向けられなければならないのです。人間に關しては、何よりも彼等を愛する樣、即ち、彼等が我等を憎み苦しむるとも、決して敵意ある感情を抱かぬ樣に努めるべきです。

その爲には、何よりも先づ、彼等を愛し彼等を理解する樣につとめ、理解し乍ら、彼等を更に愛する樣につとめる事が必要です。けれども通常、人は、人々を怒らさず氣に入る爲に、神が我々に求め給ふ事を怠るものです。同時に、その人の爲に、神の命令を等閑にしたその人に對して、苦しい感を抱きます。そしてかうして人は、二重

の罪を受けます。第一に神の命を果す事を怠り、第二に、その人の爲にさうしてやつたその人に對して愛を缺きます。丁度その反對の行爲を人はしなければならないのでせう。良心の命令を果たし、我々の行爲を不快に思ふ人達の立場を認め、愛を續けてゆく可きなのです。さうすれば、人は、己に取つて爲さなければならない事は、たしかにすべて果たし、恐らく、交つて居る人々に善を示す事が出來るでせう。

レオ・トルストイ

ビリユコフ宛

一九〇六年。ヤスナヤ・ポリヤナ

三月一日が、私に與へた印象に就いては、私は、特別な事や或ははつきりした事は、何事をも言ふ事も出來ません。しかし暗殺者に對する審理と處刑の準備とは、非常に強い印象を與へました。私が生涯の中に於て感じた一番強き印象の一です。私は、其等を思ふ事を禁ずるを得なかつたのです。其は、本來は、彼等を思ふよりも、彼等を殺す事に加はる準備をしてゐる人々及就中アレキサンダア三世の事をより多く思はないでは居られなかつたのです。若し、彼が彼等を赦してやれば、どんな喜ばしい感を持つに違ひないか、私には、其が本當にはつきりと考へられたのです。私は、彼等が處刑されるであらうとは、信ずる事が出來ませんでした。そして、同時に、彼等の殺人者に對して、滿腔の同情と恐怖とを抱いて居たのです。私は、今も猶憶へてゐます。私は、かうした考を抱き乍ら、中食の後に皮製寢椅子の上に臥ねたのです。そして全く思ひもかけず眠り込んで終ひました。處が、その眠りの中に、或はその半睡の中に、彼等及彼等の處刑に對する準備の事を突然に思ひ至つたのです。その瞬間、私は本當にはつきりと、人が彼等を處刑しやうとしてゐるのでなく、私を處刑しやうとしてゐるのを感じたのです。そして、……絞首人や裁判官と共にでなく、私自身が、その死刑を執行すると云ふ事を感じたのです。私は、恐ろしい恐怖で眼を覺ましました。それから直に、私からの手紙を書きました。

レオ・トルストイ

（譯者註。この手紙はアレキサンドル三世へ宛てた手紙を指し、三月一日の出來事とは、千八百八十一年の三月一日アレキサンドル二世が弑せられた事を意味してゐます）

ストコフ宛

一九〇六年十一月四日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛する友よ。仕事に關した事なら、貴方の欲する通りに萬事おやりなさい。其は貴方の仕事であつて私の仕事でなく、貴方は私が干渉する必要がない程うまく事を運んでゐられる。しかるに其よりも益々強く私を引附るのは、他思想です。即ち貴方が御手紙の末に書かゝれたのと全じ種類の思想です。この思想は、私をして涙を流す迄に感激せしめました。私に取つて、其はそんなに親しく好ましいものなのです。「人もし愛の内にあれば、神のうちにあり、神又そのものゝ内にあり」神を見た者はありません。しかし、我々がお互に愛し合ふならば、神は我々の内にあるのです。愛は、我々が神に到る事を得る生きた形式です。語を變へれば、我々を最高の意識階段へと高めてくれる生きたる形式です。ですから、若し我々が人生及我々をさう解すれば、我々は決してお互に不和になつたり、或は他の人と不和になる事は有り得ないのです。政

治に對する關係に就いては「賢者の思想」の中の十一月三日老子の言葉を讀んで下さい。

私は、終りに唯一言附言したい。單純な、情慾から脱した、あまり裁く事を好まぬ人間には、自ずとその眞の本体——愛が現はれてるものであると。

猶貴方にはもつと多くの事を言ひたいのですが、私は、私が言はうと欲する事を私に敎へた彼が、貴方に語り、貴方に同樣な事を告げるであらうと信じます。

貴方やフエルテンや、猶有難い事には多くの他の友達の樣な、友を持つ事は、非常に喜ばしい事です。ヂムシチザに關する貴方の意見は、私をして、今惱んでゐる宗敎的な人の悉くに就いて書かうと言ふ考に到らしめました。貴方は兵士のクルチシュに就いて御存知ですか。彼は、イコニコフに依つて基督敎の敎を理解して以來兵役を拒んだのです。彼は懲治隊へ閉ぢ籠められました。人々が、彼を、彼が耐えなくてはならない苛責で驚かさうとした時、彼は唯かう言つた計りです。「私は、我々の師の樣に彼等の爲に祈らう」と。

レオ・トルストイ

コレスニシエンコ宛

貴方の御手紙は、私が期待する事や又味ふ事を恐れてゐた心の喜を與へてくれました。その喜とは、我々の運動が、目に見える善き實を結び、我々に對し精神的に密接せる人々の數が絶えず增加して居ると言ふ意識から生ずる、喜の事です。

貴方の御手紙は、大變私の氣に入りました。――いや、是は正しい表現ではありません。――其は、その眞面目な卒直な簡素な調子で、私を感動さしました。私は、貴方の書かれた事の悉くと全じ意見です。殊に、人間に取つて、「我等何を爲すべきや」の問題が最重要なものでなく、「我等いかにして爲すべきや、如何にして生くる可きや」が最も重要なものであると言ふ事に對して、さうです。第一の問題は第二の問題の一小部分及その推定に過ぎないのです。

そして、確かに、眞理を追求しやうとして居る多數の人間が、「如何にして生く可きや」の問題を「如何に爲す可きや」の問題と代ふる誤謬を犯してゐるのです。

若しも人が例へば、村の教區の生活と眞理の播傳を、彼の生涯の主要な任務に撰んだならば、是も全じ誤であると、私は信じます。私は、貴方の御手紙を觀て、貴方は、私と正に全じ樣に、基督の教を解して居られるのを察知してゐます。ですから、私が、人は外的な世俗的な事を最高の目的に置いてはならぬと言ふなら、其は全く無駄な事です。勿論、人が、その人生觀と一番矛盾しない生活方法なり活動を撰ぶのは、自然な事です。だから、私にも、醫科大學を村の教區と代へやうと云ふ貴方の願は、了解出來ます。是に依つて、貴方は多くの我々の友達――例へば、貴方に私の住處を知らしたストコフ等と全じ樣な結論に達します。ごうか、ストコフに私が彼の手紙を昨日受取つて返事を出さうと思つてゐると傳へて下さい。私は唯、あまり爲す事が多く、猶近頃本當に弱つて居るので、直ぐにさうできない事を恐れて居ます。貴方にも、もつと書きたいのですが、是で手紙を終ります。

貴方と知合になつた事を、心から喜んでゐます。

愛する　　レオ・トルストイ

ストコフは、我々に密接してゐる友達の住所を知らすでせう。しかし私からも、直ぐに御送りします。そして、其に添へて、私の處に住んでゐる友のマ・コヴ井ツキイが、貴方の爲に書寫したカルタシンの手紙を送ります。

ルスキア・ウエドモスチ編輯局宛

一九〇八年三月。ヤスナヤ・ポリヤナ

同封の手紙を送ります。正に來らんとする程の記念祭に對して反對の態度を取つてゐる人々のこの様な信書を、私は、數通受取つたのです。そして、その作者の欲する様に、是等の手紙を印刷する事を、私は貴方に御願ひします。私も、全じ様に其が印刷されたのを見たいのです。それと關連して、私の來る可き記念祭に就いて少し言はなければならぬ事がありますから。

私は、この記念祭が私には極度に煩しく感ぜられる事を言ひ度いのです。その理由は顆多です。第一の理由の一は、その様な尊敬には全く同感を持てない事です。私が思ふには、人が或る人間の活動に對して感ずる同感なり愛は外的に表し得ないもので唯その尊敬の對象と密接な思想及感情の一致に依つてのみ表し得ると思ふのです。

ずつと前に、殆んど三十年程前に、プーシュキンの記念祭及その記念碑の除幕式の

際、愛するツルゲネーフが、私の許に來て、彼と共にこの記念祭に加はる事を、賴んだ事を、私は覺えてゐます。その當時私に取つて、ツルゲネーフは、親しき且つ尊敬して居る友であり、猶プーシュキンの天才を、私は尊敬して居ましたけれども（今も猶尊敬してゐます）――私は、斷りの返事をしました。その樣な記念祭は、其當時に於ても既に、私には不自然に、――私は、誤れるものとは言ひ度くありません。――私の精神的要求に適はしくなく感ぜられたのです。

其が今や私自身が問題となれば、私はいよいよ強く其を感ずるのです。

しかし、此の反省は、最も最後に來たもので、最も重大なる理由である他の理由は此の手紙や其と同じ樣な他の手紙の中に言ひ表はされてゐる、其です。即ち、この祭の用意さへもが、多くの人々に私に對する一番深い惡感情を起こしてゐると言ふ理由です。この惡感情は、恐らく言はれずに終つたものでせう。しかし、あの準備が其を外に押し出し、露出させたのです。私は、私自身がこの感情を呼び起こした事を知つて居ます。私が他の人々の信仰を忌憚なく攻擊したあの不用意な鋭い言葉故に、私自身にその罪があるのです。

私は、其を衷心から後悔して、其を言ふ事が出來る機會を得た事を喜んでゐます。

しかし乍ら、かうしたとて何の甲斐もない事です。片足を墓に入れてゐる私の樣な年には、どうかして他の人々と仲善く暮らし、さうしてその樣にして彼等から別れて行き度いのが唯一の願です。しかし此の手紙や又私が受取つた手紙は、記念祭の準備が、人々の間に、私に對する反對の感情を引き起こして居る事を示して居ます――其も正當な事です――是が、甚だ私を惱ますのです。天秤の盤の一方に、私が尊敬する人々の快い又褒め立てゝくれる感情がありとしても、一方に唯一人の人間の憎惡でもあれば、私は、躊躇無く直ちに前者を棄て、後者を增さない樣にするでせう。

しかるに、今や、私は感ずるのです。この記念祭は、私が受くる可き敵意ある惡感情を、一人でなく、多くの、甚だ多くの人々の心に引き起こしてゐると。是は私の苦しみとなり、私を惱ますのです。ですから、私は、私を愛してゐるすべての善き人々に、私自身のあの表彰を不可能になす樣、全力を盡して欲しいと乞ひ願ひたいのです。

私は、私がこの計劃された表彰を受くる價値なきものと思つてゐる事に就いては言はない積りです。其は、私には、甜言か或は虛僞と感じられるでせう。しかし、私は

私の考を言はずには居られないのです。そして、もし、この計劃が中止され、その方面に於て何事も計劃されなかつたならば、幸福になる事でせう。

レオ・トルストイ

ポジャンスキー宛

一九〇八年三月。ヤスナヤ・ポリヤナ

親しきアレキサンドル・ミカイロ井ツチ。

貴方がグゼフに宛てた手紙を讀みました。その中で、貴方は、人が眞に私を尊敬する唯一の方法を本當にうまく書き表して居られる。即ち、私に事實快く、完全に滿足を與へる方法を。其は、私の著述を擴めた計りに、貴方が六箇月の入獄を見、又多くの人々が入獄されたのだから、その著述故に、私を同樣に禁錮するのです。この考は、多くの人には冗談と思はれ又パラドツクスとも思はれるでせう。しかし本當に疑もなく眞實なのです。惡臭を放つ、冷い結構な眞箇の飢餓の塔へ入れてくれるより以上に私を滿足さし又喜ばす事は、本當にないのです。貴方は、私がほんやりと望んでゐた事をはつきりと言つてくれました。私は、最近、何か望み度い事があるかと自問しても何も見出さなかつた程、幸福な自分を感じてゐたのです。しかし今では、貴方の提

言を冗談としてでなく、私の著述やその傳播を喜ばぬ人々に安息を與へ、他方死の前の私の老ひた日に衷心からの喜と滿足を與へ、同時に、私の記念祭に對する豫期の煩しい種々の心配から解放してくれる方法と解釋しやうと言ふ、心からの願を抑へる事が出來ないのです。

友として親しく貴方に握手します。

レオ・トルストイ

イコニコフ宛

一九〇八年五月一日

愛する友にして兄弟なるアントン。四月二十二日附の御手紙は、いつもの如く貴方及貴方の精神狀態に關して、興奮と感動と恐怖とを以つて讀みました。私には、人々の人間の性情に反した慘酷さが、お互の間に、殊に其を忍ばねばならない時に、引き起すあの重たい感情は、よく、非常によく解ります。貴方の中に生きる神が、貴方を助け、貴方に常に、たとへ厭しい昏迷に陷つて、神に反した行をして居る人の魂の中にも、神性の閃きのしるしが——其がいかに少なく見えやうとも——猶生きてゐる事を思ひ起さしめ給はん事を祈ります。私は、貴方が丁度私の解する如く解して、自己と戰つてゐられる事を知つてゐます。又、其は御手紙からでも解ります。

私は今「暴力の法則と愛の法則」と云ふ題の論文を書いてゐます。其の中で、私は暴力の法則は必然的に愛の法則に代はらねばならない事と、其時が今始めて來た事と

を證明しやうと努力してゐます。この論文の中で、私は兵役拒否の事件と貴方自身に就いて述べてゐますし、貴方の御手紙からの文章を引いてゐます。貴方は是を不愉快に感じられはしないでせうか。貴方の名前を書くのと書かないのと、どつちがよいとお思ひでせうか。

私が書いてゐる事は正しいと、私は堅く信じてゐます。時は既に來り、戸の前に立つてゐるものだと信じてゐます。もつとも私は其時をもう見られないでせう、しかし貴方はその時を体驗することが出來ます。そして、其時に、貴方が貴方と貴方の魂の爲になさつた仕事が、神の國の近づく事にも役立つた事を知られる、其は何といふ喜ばしい感情でせう。

もし私があなたに何かお役に立つ事が出來、貴方が其が何かを私に言つて下されば、其に依つて貴方は私に大いな喜を下さる事となるでせう。

親しきキスを以て

レオ・トルストイ

ルツシイ紙編輯局宛

一九〇八年五月十八日

ノブゴロドに於て、モロシュニコフは、彼が私の著述を所持し、其を讀みたいと思ふ人々に與へた罪に依つて、一年間監獄へ入れられました。人々は、私の本を擴めた人々を罪罰しはするが、是等の本の播布のみでなく、その出版にも主なる罪を有する私を放置してゐます。

若しも、私の本に興味が在るならば、其は決してかゝる事で減じるものではありません。何となれば、是等の本は、露西亞に於ても外國に於ても出版されて居り、私も是等の本の作者及主たる播布者として、既に十二年前に言つた如く、私の生きてゐる間は、この活動を中止しないからです。だからして、もし私の活動が好もしくないならば、其を除く合理的な方法は明らかに唯一しかありません。——人は私自身を除かねばならないのです。

私の友の苦しみは、私に取つて非常な苦痛であります――けれども、私は、私の生きる限り、私の活動を中止する事は出來ません。私が爲してゐる事に依つて外的の目的を追ひ求めてゐるのでなく、私が爲さねばならぬ事のみを爲してゐるのですから、中止出來ないのです。

即ち、私が神の意志を理解し且つ理解しなければならない限り、神の意志を果してゐるから止むる事が出來ないのです。しかし、私が私の表面的な記念祭に關する新聞紙の論說に依つて何等かの關係に於て安全であると思つてゐると信じて欲しくありません。この點に於いて私は自欺に陷てはゐません。私はよく知つて居ます。もし私の崇拜者の多數が、政府の猛烈な反對にも係らず、私の八十歲誕辰記念を祝ふならば、其時は直ちに、今私の友に對して取られて居る方法が、私に對して適用される事を。是は、既にもつと以前に行はれなければならなかつたのです。

上の樣な理由で、私は繰り返して私の著作の播布を好まない人々に、全く罪の無い人を目指さず、私を目指してほしいと願ひ又勸めます。

モロシユニコフ宛

一九〇八年六月六日。ヤスナヤ●ポリヤナ

愛するウラヂミル。貴方の御手紙を有難う。貴方の內に生きて居らるゝ神が、貴方が、神の爲に、神を通じ、神の指示に從つて生きられるやう、貴方を助け給ふ事を祈ります。そして眞に、貴方は、其を行つて居られる。その中にこそ、眞の自由があり眞に打ち克ち難き力があるのです。何故と言ふに、人が貴方の樣に「君達は私を牢獄へ投じ樣とするのですか。どうぞ、其こそ私自身が望んで居る所です。君達は、私を鞭を以つて打たうと言ふのですか――私は、君達の御注意を感謝します。君達は、私を絞殺しやうとしてゐる――よろしい、どの絞首繩に首を入れればいゝんですか」といふ時には、其は最早人間的でなく、神的な何かがありますから。

どうして人々は暴力を征服し無効にするには唯この態度よりしか無いと云ふ事を理解出來ないのでせう。夫から事實、暴力と戰ふのより、この方が危險や冒險や憤怒を

伴はないと言ふ事を。しかし、人々は、彼等自身が非難する暴力の助けに依つて暴力を取除かうと思つてゐます。そして、暴力に對する暴力の適用に依つて、彼等が其に對して戰ふ處の暴行を最も甚しく挑發してゐる事を知らないのです。

神が、貴方を助け給はん事を祈ります。貴方の心の狀態を知れる樣、御手紙を下さい。そして、若し貴方が弱く感ぜられ、其を私に告白されても、私を悲しますことは、どうか信じないで下さい。一番單純で重大で外目には不快な事を、何と手易く、偉大な喜を齎す仕事になし得るのでせう。

御機嫌宜う。

愛する　エル・トルストイ

イコニコフ宛

一九〇八年七月二十三日。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛する兄弟アントン。貴方の手紙はみな確かに受取ました。感謝して居ます。もし煩しくなかつたならば、どうか又手紙を下さい。どの位屢貴方の事を思ひ、貴方の事を語つたでせう。今日「讀書の圈」を讀み、私の好きな必要な思想に出會ひました。私は、其が貴方にも貴方の試煉に於て貴く又必要であると信じます。其本は貴方には與へられてゐないから、私が御送りします。私は、最も容易な場合に於てでしか、あらゆる苦惱と缺乏とを善行に變じ得ると言ふ眞理を試みる事が出來ません。貴方は、困難な狀態で其をよりよく試みられます。我々の中に住む神が、貴方を助け給ふ事を。

私は、その迷信を離れて、善人の敎をその純粹な姿に於て認めた、多くの洗禮敎信者を知つて居ます。若し私が貴方の洗禮敎信者と話すならば、私はかう云ふでせう。「我々は、基督が誰であるかとか、神は何を爲し給ふとか爲し給はぬとか、死後はど

うなるか等に就ていは語らないで置きませう。我々は萬事に誤り易いのです。我々が語らうと云ふのは、誤りの無き、確かに知れてゐる事、我々は何を爲す可きかに就いてです。福音書の教へて居る事に就いて、我々は全意見です。即ち我々の生命は愛に依る事、我々が隣人や他人や殊に敵を愛すればする程、我々は神の意志を果してゐる事――この事には、我々は皆一致してゐます。では、我々は、其の様に行ひ、其中で自らを支へて行く様に心掛けませう」

御機嫌宜う。親しくキッスします。若し煩しくなければ、手紙を下さい。

レオ・トルストイ

クルチシへ感謝と挨拶を傳へて下さい。

ノ井コフ宛

一九〇八年八月二十日

愛するミカエル・ペトロ井ッチ。

若し私が貴方の願を果す事が出來さへすれば、貴方の願は、私に快よく感じられたでせう。私は、貴方が手紙を書く時に既に、貴方の願も、私の願ひも果されない事は知つてゐられたと信じます。しかし、私が貴方に手紙を書かうとする、最も重要な事は、貴方の手紙全部を支配してゐる氣分、私を甚しく苦しめた感情に就いてです。私の爲計りでなく、貴方の爲にも、どうか私の事を信じて下さい。

私は今も猶、あの愛す可き大きな美しい兵士を覺えてゐます。モスカウの家の二階の低い私の部屋で私に質問をしたあの兵士を。その質問は、その深さと眞面目さとで、私を驚かしたものです。當時貴方は、就中貴方の精神生活の諸問題に、從つて普遍的人間的な問題に一心になつて居られた。所が今では、私は、最早貴方がさうでない事

を恐れる計りでなく、其を貴方の手紙からも知りました。今では、貴方の手紙の殆んご一語毎が語つてゐる最も強い感情は――私を恕して下さい。――所有階級に對する羨望の感情と其から生ずる憎悪の感情なのです。貴方は、例へばかう言つて居る。私の思想は、――其は、私の思想でなく、恐らく私に依つて言はれてゐる永遠の思想なのです。――所有階級の親戚に何等の影響を與へる事も出來ないと。其で、貴方は、是等の人々の總ては、人間の本質に最も特質的な、自己完成に對する能力を奪はれてゐると、豫想して居られます、私は、貴方自身も知つて居らるゝ通り、私の見解に從つても、その最奥まで腐敗した社交界の中に、其に對して一言の善き言葉を言ふ事さへも出來ず、ある立場全体を罪ありとする人間を、唯一人見出す事もむづかしいと信じてゐます。私の様な老人が、貴方の様な若い人々に、愛するものが愛する者に物を言ふ如く言つてゐるのです。自省して熟慮して下さい。愛するミカエル・ペトロ井ツチ。僅か唯一人の兄弟を憎むとも、そのものゝ魂の狀態は、恐ろしいものです。ある立場全部を憎むものゝ魂の狀態は、どうならなければならないでせう。私は、心から言ひます。若し私がこの生活狀態の何れかを撰むのならば、即ち、私が今在る様な境

遇、道德的に頽敗した不正な奢侈の生活か（私は、この生活を常に罪ありとして來、又今もさうしてゐるのですけれども。尤とも、多くの人は私を信じてくれません。）或は、頽廢し切つて居り且つ今猶現に頽廢してゐる富者の環境に住み、事毎に奴隷化され壓迫せられてゐる人々の勞働に依つて生活し、しかも、其等を少しも感ぜずに躊躇なく享樂と滿足とに慣れた境遇に耽つてゐる人の生活か。或は、勞働して、自らもうけたパンを食べ、他人の勞力を搾取しない計りでなく己の勞力を他人の所理に任せてゐる、けれども全時に、彼の壓迫者と絶えず交渉があるので其が爲引起される羨望と憎悪とに滿たされてゐるらしい人の生活か、是等を撰ぶならば――恐らくは一瞬の躊躇もなく前者を撰ぶでせう。搾取される人となり、搾取する人とならないのは、たしかに善き事です。しかし其とても神の意志への從順さと歸依から、人間への愛から起る時に限るのです。そして、もし、其が、外に表す事が出來ないで制せられてゐる人間憎悪から生ずるのであれば、搾取される人の狀態も、搾取する人のそれより遙かに遙かに惡しきものとなります。事の核心は、外的の生活條件にあるのでなく、其に對する精神的關係にあるのです。最善は言ふ迄もなく、万人に對する愛に充ちたる態

度、神への愛より生ずる態度です。そして、この様な態度を、私は貴方に心から願ふのです。私は知つてゐます。貴方が、深き精神と熱烈な心とで私を理解して下さると。だから、私は卒直に書いたのです。私の言つた事が常に滿足の行く丈の顧慮と親切とを表してゐないとしても、あなたがゆるして下さると思ひます。とにかく、私は、たゞあなたに對する心からの愛の感じに從つたのです。そして今後も長くその感を持ち續けて行きます。

レオ・トルストイ

アンドレエフ宛

一九〇八年九月二日

愛するレオニド・ニコラエ井ッチ。

あなたの美しい御手紙をいただきました。私の思ふには、私もかつて昔人々に何かを捧げた事はありますけれども、本來は、捧呈がごう云ふ意味であるかは、解らないのです。しかし唯一つ、あなたがわたしに捧げて下さつたのは、あなたが私に對して抱いてゐられる好意を表す爲だと言ふ事丈、解りました。是は、あなたの私に下さつた御手紙を見ても解ります。そして、この事は、私に取り大變喜しい事です。あなたは、あなたの御手紙の中で、あなたの作品に對して、非常に卒直な又謙遜な判斷をして居られる。其で私も又、あなたに、あなたの作品に就いてでなく、一般に創作と言ふ事に就いて言ふ事を許して頂いていゝでせう。恐らく貴方に有益でありませう。

私は、人は、その表現しやうと言ふ思想がもつともよく表現される迄は其から離れ

る事が出來ない程強く或る人に迫つた時にのみ書く可きだと信じてゐるのです。是に反して、他のあらゆる筆を取る動機、例へば虚榮とか金錢慾の如き夫は、よし其等が、思想を表現したい要求を伴つてゐるにもせよ、文學的作品の卒直と價値とを犯すのみなのです。この事には特に注意しなければなりません。其から、屢々起る事で、特に近代の著作家がその罪に陷る所の、他の一の動機は、（デカタン派はみな是に關連してゐます）何か特異なものを作り、獨創的であり、讀者を亞然たらしめ驚愕せしめ樣といふ欲望です。是は、先に述べた、他の事を顧慮するより遙かに悪い事です。その際に、美の根本條件である單純が失はれて終ふからです。單純で無技巧のものは、或は美でない事もあります。しかし複雜化され技巧化されたものは、決して美になり得ないのです。更に尙次に來る第三の點は、創作する際に急ぐと言ふ事です。是は先づ藝術品を害し、其他に、人があるきまつた思想を表し度いと言ふ眞面目な欲求の無かつた事を示します。若し眞にさう云ふ欲求があれば、思想に對して眞に明白な的確な表現を見出す爲には時間と努力を惜しまぬ筈です。其から第四に、人は、多くの讀者の趣味と欲求に媚びやうと努めます。是は殊に有害で、既に最初から作品の價値を無く

さして終ひます。文學的作品の價値は、正に次の點にあるのです。其が、例へば說敎の如く、普通の意味に於ける敎訓的でなく、人々に、或る新しき、是迄知られてゐないもの、しかも公衆の多くが絕對的に確かであると思つてゐる物の正反對の何物かを知らすのです。然るにさうせずに、人は、そんなものはないと言ふ前提を作つてゐます。

恐らく、あなたは、是等の注意の二三に依つて利益を得られるでありませう。あなたは、あなたの作品の全價値は、その卒直さにありと書かれました。私は其を確信し尙貴方が貴方の作品に就き善き目的を抱いてゐられる事を信じます。私は又、あなたの作品に關するあなたの謙遜なる判斷が全く公正なる事を信じます。其は、貴方の著作の偉大な成功が、あなたに、その價値を過大に重んずる樣に誘惑するより、遙かに美しい事です。私は、あなたの作品は、あまりに少しゝか讀んでゐません。しかも適當なる注意を拂つてゐないのです。元來、私は、すべて文學の作品は極僅かしか讀まないのです。充分生々とした興味を與へないものですから。しかし私は、あなたの作品を知り、その作品を記憶してゐる限りは、益々その方面の仕事を續け、あなたの思

想を出來得る限り明白に的確に表現する樣に勸めたいのです。

私は繰返して申します。貴方の手紙は、私を大變喜ばしました。若し何日か此の地方へ來られたなら、寄つて頂くこと嬉しく思ひます。

愛する　　あなたのレオ・トルストイ

僧侶ソロウエフ宛

一九〇八年十二月。ヤスナヤ・ポリヤナ

愛する兄弟イワン、イリツチ。御手紙を頂いて、喜ばしい感激を以つて讀み終りました。御手紙は、全く眞の基督敎徒らしい愛の感情に滲されて居ます。其が特に私には嬉しかつたのです。

私は、あなたに言ひたい。

アラビアの詩に、次の樣な傳說があります。荒野を漂浪つてゐたモーゼが、或る時家畜の群に近づくこと、彼は牧者が神に祈るのを聞きました。『おゝ主よ。主を見出すには、如何計り喜んで、私は、主の靴を脫し、主の足を洗ひ、主の足にキツスし、主の住居を淸め、主に私の羊の群の乳を捧げるで御座いませう。私の心は、主に憧憬れて居るので御座います』この言葉を聞くこと、モーゼは怒つて言ひました。『汝は瀆神者であ

る。神は肉体を持ち給はぬ。神は、衣服も住居も僕も求め給はぬ。汝は悪しき言葉を吐く』と。其時牧者の心は曇りました。彼は、肉体なく、肉体的要求なき存在を考へる事が出來なかつたのです。彼は最早祈る事が出來なくなりました。そして絶望に陷つて終つたのです。其時、神がモーゼに言ひ給ひました。『何故汝は、我が忠實なる僕を我より追退けるのであるか。人は各々その肉体を持つと共に、その話し方を持つものである。汝に取つて悪しき事は、他の人には善となり、汝に取つての毒も、他の人には甘き蜜である。言葉には少しも意味はない。我は、我を頼んでゐる者の心の中を見るのである』と。

私はこの傳說が大變好きです。其で、私は、貴方に、この牧者を見るのと仝じ眼で私を見て頂き度いと御願ひします。私自身も、さう云ふ風に自分を見てゐるのです。主に對する我々人間の考は何時迄も不完全なものでありませう。しかし、私は、私の心は、その羊飼の心と違はぬ樣にありたいと言ふ希望を抱いてゐます。そして、其故に、私が所有してゐる、私に完全な安靜と幸福とを與へてくれるものを失ふのを、恐れてゐるのです。

貴方は、私に、教會との一致に就いて書き送つて下さいました。私は、私が教會との關係を決して斷つたものでないと言ふ假定に於て誤つてゐないと信じます——尤もかの人間を不和にし分距つる教會とではなく、眞實に神を求める總ての人を、かの牧者から佛陀や老子や孔子や婆羅門教徒や基督教徒や尙其他の多くの人々に至る迄を一にし結び合はせるその教會となるのです。私にはこの世の何を恐れると言つて、教會と關係を斷つ程、恐れる事はありません。

私は、貴方の愛に滿ちた御手紙を心から感謝し、親しく握手します。

レオ・トルストイ

トニロフ宛

一九〇九年一月二十一日。ヤスナヤ・ポリヤナ

私の見解に依れば、基督教の教理に從つて生きやうと云ふ人の生活は、例へば彼がある村の百姓の處で下僕として生活してゐるとか、或は隱者として生活してゐるとか言ふ樣な外的の事情に、その表現を見出す事は出來ません――其上全体として、ある一定の生活の形式の中に、その表現を見出す事が不可能なのです。其は全く人間の精神狀態にあります。その爲に彼が生きてゐる眞理を、生活の中に具体化しやうとして働く努力そのものゝ中にあるのです。

人はみな――私は私の事を語つてゐるのではありません――人はみな、例へば貴方や、貴方と共に生きてゐるすべての人間は、若し正直でありさへすれば、彼が眞の理想として努力してゐるその理想を、少しも、滿たして居ず又永久に滿す事は出來ない事を、非常によく、その心の底で知つてゐる者です。……ですから、純粹な善き生活

は決してある一定の狀態にあるのでなく、人がみな其の下に苦しまなければならない罪や誘惑や迷信から逃れやうと絶えず努めてゐると言ふ點にあるのです。其等のものから全く逃れると言ふ事は出來ません。出來得る限り其等から離れる樣に爲す可きなのです。だから人は、その人の內にある罪と誘惑とを全く遁れ得るものと思つてはならないのです。何時迄も其に就いて努力しなければならぬ物と觀なければなりません。

是に反して、すべての罪と誘惑に遠離つた生活を爲し得ると自負して居る人は――自己を欺き、全力をその外的の事情の整理に費して、內面的の働き其物に費す事を忘れ、唯益々自己完成の可能性を失つて行く計りです。

多くの人は、みなこの誤に陷ります。最も普通なる一例を引いて見れば――特に團体を組織する時にあたつてよくある事です。そして、他の人々を、その人々が生活してゐる外的の事情に依つて判斷する人々も、この同じ誤を犯してゐるのです。外的の事情は、決して最も重大なるものではありません。最も重大なのは、人が其中に生活してゐる誤つてゐる事情から逃れる爲に拂つて來た、又拂ひつゝある努力なのです。

事物の外面――即ち所有に關しては、洗禮者ヨハネの言葉を思ひ起すのがいゝでせ

う。彼は言ひました。二枚の上衣を持つ者は、そを持たぬ者に與へよと。（私は猶、附け足したいのです。たとひ一枚しか持たぬにしても、彼より寒さに苦しむ者に其を與へよと）この言葉から、人は、自己犧牲には極限の無い事を悟る事が出來ます。若し老人や子供等が、食ふ可き一片のパンさへ持つてゐないならば、人は生活を續け、たとひ一日に一片の乾けるパンの端さへ食す可き正當の理由を持ち得ないのです。ですから全体、外的行爲の價値の判斷等と言ふ事は、無意義なのです。乞食がその仲間に分け與へたパンの端が、千萬長者の富者が善事の爲に捧ぐる百萬圓よりは大であることは決して言ひ得ないのです。

すべては、内的の精神的努力に基くのです。しかし、是は唯神のみが知り給ふのです。

我々は再び仝じ所へ立ち返つて來ました。我々は、人間をその行爲故に罪ありとする事は許されてゐませんし、又さう云ふ權利も全く持ちません。我々の爲し得るは唯一つ、力を盡して人を愛する事、殊に、我々を憎む者——福音書の言葉に從ふとさうですが、よく言へば——我々に取つて不愉快な者を愛する事です。

レオ・トルストイ

ペテルソン宛

一九〇九年一月二十八日

愛するニコライ・パウロウィッチ。私は、あなたにどんな事をしたでせう。何故あなたは、かくの如く恐ろしく私を憎むのですか。今日の如く、貴方の御手紙を見る毎に、私は、自問するのです。私はこの人に何か惡しい事を行つたのかと。しかし其らしきものは何も見出す事はありません。却つて、何時もの如く、貴方に對する卒直な善き意嚮をはつきり感じます。ごうか。止めて下さい。愛するエヌ・ペー。何故貴方は自らを苦しめるのですか。人はみな各々その人の認信を持つてゐます。殊に、毎日死の用意を備へてゐる八十の老人に至つては、さうです。誰かが私と仝じ樣に考へない、私の意見に從へば誤つてゐると言つて、怒らなければならないのでせうか。貴方は、貴方の御手紙が最後のものだと書かれました。若し貴方が、善き手紙を書く事が出來ぬと信ぜらるのなら、その樣にして下さい。

僧侶コスボウスキー宛

一九〇九年三月。ヤスナヤ・ポリヤナ

私が貴方の御手紙に對して心ならずもこんなに長い間御返事を差上なかつた事を、お許し下さい。

私は、貴方の御手紙を注意して拜見しました。しかし遺憾乍ら――事實本當に遺憾に思ひますが――私をして信服せしむる程の新しい議論を見出しませんでした。貴方の主な動機は、教會の神聖と完全に對する信仰です。勿論この信仰を有する人にはその中に含まれてゐるすべては疑も無く眞理でせう。しかし私は、私が繰り返して申します如く、其等の信仰を持つてゐません。そして其の信仰を心の中に引き起す事も出來ません。私は、強いてその樣な教會を信ずる事は出來ません。その自身の定義に從へば、唯一でなくてはならぬのに、希臘―露西亞派、カトリック派、ルーテル派及その他に分裂して、お互に己のこそ唯一の眞の教會であると主張してゐる樣な教會を、

信ずる事は出來ません。恐らく、その中の一、あなたが奉じてゐられる教會が、眞のものかも知れません。しかし、私は、さうこは思ひません。

ごうか、貴方の善き心を以つて、私の立場になつて見て下さい。私は、片足を墓場に入れてゐる老人です。そして、生涯の最後の日なり時間なりを、すべての人間こ平和に善く了解して送り度いこ言ふのが、私の唯一の望です。そして、若し私が、貴方の宗教を、未來の生活の應報こ共に認めゐるならば、私は、眞の教會信仰を否認した事に依つて、永久に我身を滅し去る事が出來るのです。何故にその樣な人間が、數百萬の尊敬すべき人々が眞理こ認め來り、尙認めてゐる事を、非難するのでせう。何故に是等の認識が彼の中に起つた時に、彼は、惡しき感情を非難せずに、非常に多くの人々の持つ——其の人々の内には、私に近い人々、例へば尼である妹や多くの人が含まれてゐます——最も善き感情を非難するのでせうか。ごうして、其樣な人間が、宗教を時代遲れこし、不必要こして、其計りでなく有害であるこさへ思つてゐる所謂知識階級こ言ふ現在の大多數の人間に、最惡の感情や呪詛を引き起こす樣な、反教會的基督教的信仰を公言するに至つたのでせうか。もし、彼の如き境遇にある誰でもが、心

には悲を抱き乍ら、彼が教會信仰に復歸する事を願ふ多くの人々の愛に背き、同時に、輿論を支配する人々の誤解——否、私は敢へて言ひます——輕蔑を引き起こしてゐるならば、其は明らかに、彼がさうする外に仕方がないから、さうしてゐるのです。

實際、私は如何したらいゝのでせう。私は貴方や他の多く善き人々の願を滿たす事が出來ないのですから。文字通り出來ないのですから。もし、私が、私が信じない信仰を信ずるこ主張するのみならず、尊敬してゐる善き人々こ仲よく暮らし度いこ云ふ願を信仰であるこ僞り、自己を欺かうこつこめたならば、其は尙此上の無く惡い事ではないでせうか。

實際、愛する兄弟よ。ごうか私をして、私がかつて達した宗教的確信の中に、私の生活を送らせて下さい。(私は、誤つてゐないこ思ひます)ごうか、私に、この世に私を送り給ふた主の御心を果さうこ云ふ私の願を許して下さい。そして、たこひ、私が主の御心を知らうこし、今私の晩年をその實行に向けやうこする、あらゆる努力にも依らず、誤を犯して居り、今猶犯しつゝあるにせよ、主は、私を知り給ひ、私の誤を咎め給ふ事は有り得ないのです。

猶もう一言附け加へる事を許して下さい。私の確信は、私を説服しやうとしてゐる人々にも劣らず強固だと思ひますが、何故その私が、私が眞理だと思ふ事を認める樣に、この人々に求めないのでせうか。私は、私が、順逆を轉じてゐると信ずる事を定義しやうとはつとめます。しかし、私の主説を採用することも排斥することも、其は各人に任せてゐます。そして、私の見解に改めよと言ふ樣な要求や勸説を、何人にもした事はありません。私がそんな事をしないのは、私が、人はみな各々自己の長い精神的過去を有して居り、眞理の認識にも各々特有の經路を取る事を知つてゐるからです。又私が、是等の精神的勞作が、如何に複雜なるものであり、如何に他人の干渉が不可能であるかを知つて居るからです。私は、私に對しても、人々がその樣な態度を取つて下さる事を願ひます。

しかしとにかく、私は、貴方の愛より出でたる親しき態度に感謝し、仝じ樣に貴方の友として殘ります。

尊敬しつゝ、貴方の

レオ・トルストイ

モロシュニコフ宛

一九〇九年六月十六日。ブラゴダトイ

愛する友、ウラヂミール。

唯今、御手紙並に同封の興味と意味の深き文章を通讀しました。私は、貴方が、內面的世界に於ても、內に外に如何に元氣に働かれ、又其を決して忘られない事を嬉しく思ひます。私は、私の後に――私の死は近づいてゐます――貴方や、有難い事には多くの同じ樣な友の人々が殘つて居る事を思ふ時、嬉しいのです。

アレキサンデルの手紙は、私を強く感激せしめました。きつと彼に手紙を書きます。（彼は、貧乏だと書いてゐます。誰か彼に金を送る事は出來ないのでせうか。私は、自分で所置出來るものが少しあります。）あなたが、ウェー（譯者註。百姓を虐げた或る大地主）に手紙を送られたのは、いゝ事でした。私には不可能です。私の手紙が、唯彼を怒らすのみで、彼の犯してゐる破廉恥な行爲が、避く可らざる、且必要なものと思

はしむる爲の手段方法を發見せしむるにすぎぬと信じてゐるからです。若し貴方が、新聞へ其に就いて書かれゝば、有益であると信じます。私は、はじめ貴方に私の名前を書く樣にすゝめる積でした。しかし、次に、其は事件を傷ふかも知れぬと信じました。貴方がウエーへ書かれるのは、善き事であり公明な事です。あゝ。その樣な行爲の下に、全世界は呻いてゐます。何處へ行つても、其を見ない譯には行きません。私は今娘の處に居ります。そして、新しい境遇に就て、人々から所有や財産のみでなく力と愛をも奪ふ、この組織的な全く厚顏な犯罪を特に明らかに見、又感じて居ます。落膽してはなりません。却つて惡が外に起れば起る程、ますます内に於て惡を滅さなければならないのです。是が惡を除く唯一の手段です。

アレキサンデルの手紙は、一般の弱さと卑しさの中では、その力を信ぜられる程、美しいものです。神よ。彼を助け給へ。彼への御手紙に如何計り私が心から彼に全情してゐるかをも、お書き下さい。私があなたから手紙を出してほしいと言ふのは、私もそうは思つてゐるのですが、其を果し得るか、どうかが分らないからです。

ナタリヤの手紙ももらひました。愛す可きよい手紙です。しかし、私は、彼女に對

する貴方の關係が、まさにさうなければならぬ其點に留つてゐる事を喜びます。貴方の樣な若い人々には、女性との關係が常に危險です。用心するに如くはなしです。

レオ・トルストイ

アレキサンデルへ手紙を書きました。

ノ井コフ宛

一九一〇年十月二十四日。ヤスナヤ・ポリヤナ

ミカエル・ペトロ井ツチ。

お別れする前に、私が貴方に話した事に關して、私は猶次の樣な御願をする。若し實際に私が貴方の所へ行く樣になれば、貴方の村で、ごんなに小さくもよろしいから一軒建の暖かな小屋を一軒見つけて下さる事は出來ないでせうか。貴方や貴方の家族の御世話になるのにしても、極々短い間でせう。其から更に、私は私の名前でなく、ニコラエフと云ふ名前で電報を打つ事をお知らせして置きませう。

御返事を待つてゐます。親しく握手します。

この事は誰にも知れない樣に氣をつけて下さい。

レオ・トルストイ

（譯者註。この手紙は、トルストイの家出前四日に書かれてゐる。そして「貴方に話した事」とは、家出の決心を指してゐるので、トルストイは、家出の決心を一週間程前にこの手紙の宛名主であるノ井コフに打明けてゐたのである。

因に、ここに錄した四十篇ほどのトルストイの手紙は、セルゲンコ編輯のトルストイ書簡集から拔萃したものである）

大正十五年七月十五日　印刷納本
大正十五年七月二十日　發行

トルストイの手紙　1…3000

定價　貳拾錢　送料　貳錢

譯者　宮崎縣兒湯郡木城局區內新しき村　外村完二
發行者　宮崎縣兒湯郡木城局區內新しき村　瀨古和七
印刷者　宮崎縣兒湯郡木城局區內新しき村　佐藤喜作
印刷所　宮崎縣兒湯郡木城局區內新しき村　新しき村印刷部
發行所　宮崎縣兒湯郡木城局區內　日向新しき村出版部
振替口座　福岡一四六三六番

村の本

第一篇　詩　百篇　〔實篤自撰〕
第二篇　千家元麿詩集　〔實篤撰〕
第三篇　網走まで　他七篇　〔志賀直哉著〕
第四篇　ベートホーヴェンの手紙　〔外山楢夫譯〕
第五篇　櫻兒　他一篇　〔倉田百三著〕
第六篇　緣　雨　〔長與善郎著〕
第七篇　トルストイの手紙　〔外村完二譯〕
第八篇　わしも知らない　他五篇　〔實篤著〕（以下近刊）
第九篇　生活と藝術　〔長與善郎著〕
第十篇　エドガー・ポー（ボードレール著）〔小林秀雄譯〕

菊半截各百二十余頁
定價貳拾錢送料貳錢

發行所　宮崎縣兒湯郡木城局區內
日向新しき村出版部
振替口座　福岡一四六三六番

292
733

ひ 新しき村

新しき村通信

新しき村繪葉書

月刊雜誌年一日發行
一部貳拾錢 送料壹錢

（村のニュース）月刊
定價一部參錢郵稅五厘

（七枚一組）拾五錢

發行所 宮崎縣兒湯郡木城局區內
日向新しき村出版部
振替口座 福岡一四六三六番

終